

討しており、集落営農組織の育成、特定農業団体への移行、法人化など組織化の推進に引き続き関係機関と一体となって取り組んで参ります。

また、生産調整推進のために国から交付されます産地づくり交付金については、引き続き担い手支援策として活用いただくこととしています。さらに、昨年度から全町あげて取り組んでいただいております「農地・水・環境保全国上対策」についても、これまでの中山間地域直接支払、三億二千三百万円に加え、県下で最高の一億一千六百万円の交付額となっておりますので、地域の特色ある環境向上対策等に有効に活用していただくよう推進して参ります。

畜産振興

食の安全・安心が叫ばれる中、アメリカ産牛肉の輸入が再開されたものの、国産牛肉の安全性が消費者に再認識されたところです。引き続き優良牛の生産対策として受精卵移植事業等を活用し、優れた和牛生産に努めます。

また、昨年開催された「第九回全国和牛能力共進会」で

は、本町から県下二十七頭のうち九頭が出場し、島根県代表牛として健闘されました。結果として課題も残ったことから、県に対して改良の手法や進め方等について、本町として最大限の協力を惜しまないとの申し入れも致しております、島根和牛の改良促進にあたっては全国トップの鹿児島県産種雄牛の系統も取り入れ、独自の仁多和牛に向け改良組合への支援をして参ります。

特産振興

奥出雲町野菜生産組合では、町の主要品目であるほうれん草、キャベツ、大根、トマト、アスパラ、メロン等を中心に生産振興を図っているところですが、一昨年から県職員の駐在により安全志向が飛躍的に高まり、今後はエコファーマーの育成を積極的に推進していきます。

また、転作水田を利用した生産については、水田農業構造改革交付金を活用していただき、仁多特産市、横田だんだん市場など産直市場へ積極的に出荷していただくことで、農業所得の向上に努める考えです。



多くの人出で賑わう特産市

国営開発農地

現在、特定法人貸付事業により三社が、飼料作物、サツマイモ、ブルーベリーなどの栽培を行っております。

この度、国の特別な営農支援としてトラクターやロールペーラー、ラッピングマシンなど飼料作物生産機械等を、国が三分の一、残りは過疎債を活用した事業導入を致しましたので、効率的な作業が図られるものと考えております。また、開発農地については、面的整備はされたものの、畑として活用できないことから国・県に対し再整備を強く要望してあります。今年度より新たな事業を創設していただきましたので、土壌改良事業に着手します。

なお、高糖度トマトに続いて、今年度から新たに島根ワイナリーがワイン専用のブドウ栽培に参入していただけることになり、大きな経済効果を期待してあります。社団法人奥出雲町農業公社については、引き続き経営の健全化を進めます。

林業の振興

緑豊かな森林づくりと森林資源を活かした循環型社会を目指すため、町行分収造林事業と公社造林事業を推進するとともに、「斐伊川水系水源の森づくり事業」を引き続き実施し、上下流域自治体が一体となった森林整備を行っていきます。

また、平成十九年度から平成二十三年度までの五力年間、二期目となりました「森林整備地域活動支援交付金事業」についても、引き続き取り組みます。

さらに、森林づくり交付金事業による間伐作業道と林業機械整備を図り、間伐材等の効率的な搬出と利用促進に努めるとともに、松くい虫被害木の駆除を目的にした保全松林健全化育成事業を実施しま

す。

山林地籍調査については、平成十九年度着手分を継続実施するほか、新規着手分として三成地区美女原から宇根地内主要地方道玉湯吾妻山線沿い、三沢地区下鞍掛及び四日市地内「要害山」南側付近、横田地区蔵屋から鳥上地区福頼地内大規模林道日野金城線沿い、馬木地区折渡地内一般県道奥出雲高野線沿い東側のそれぞれ一部山林、合計五百六十ヘクタールを予定してまいります。

商工業の振興

大企業を中心に好業績が続く中、本町のような中山間地域への波及感は薄く、特に、中小企業を取り巻く環境は極めて厳しい状況にあります。こうした中、本町では、昨年四月に「奥出雲町商工会」が発足しましたが、引き続き商工会に対し経営改善普及事業等の財政支援を行い、連携を密にしながら、地域経済の活性化事業を推進して参ります。

特に中心市街地のイメージアップを図り、飲食店を中心とした個人店への改修改造の